

琉球大学学術リポジトリ

帝王切開既往例の妊娠後期における子宮下節の超音波評価

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2016-04-27 キーワード (Ja): キーワード (En): lower uterine segment, sonographic measurement, previous Cesarean, uterine rupture, uterine dehiscence 作成者: 金城, 忠嗣, Kinjo, Tadatsugu メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/33666 |


(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

**Measurements of the lower uterine segment at term in women with previous Cesarean
delivery**

(帝王切開既往例の妊娠後期における子宮下節の超音波評価)

氏名 石城忠嗣 

子宮下節は帝王切開で子宮を切開する部位であり、次回妊娠時に“減弱部”として子宮創部離開、もしくは子宮破裂の部位となりうる。帝王切開既往例において妊娠後期に子宮下節の筋層の厚さを超音波で計測することは陣痛中の子宮筋層離開のリスク推定に有用な可能性がある。本研究の目的は帝王切開既往例における妊娠満期の経膈超音波での帝王切開創部評価の意義を明らかにすることである。当科で帝王切開を行った37週から41週の妊婦89例を、既往帝王切開の単胎妊娠69例をA群、子宮手術のない20例をB群、とに分けた。帝王切開前にすべての患者に経膈超音波による子宮下節厚：fLUS(Lower Uterine Segment)、子宮筋層厚：mLSUの計測が行われた。帝王切開の際、その子宮下節の術中所見によって次の4つのgradeに分類した。grade I；下部筋層に異常を認めない、grade II；子宮下節に子宮内容を透見できない程度の筋層菲薄化を認める、grade III；子宮内容を透見できる程度の筋層菲薄化を認め

る， grade IV；漿膜のみを残して筋層が欠損する。解析法としては，両群の視診 LUS grading，術前の LUS 筋層厚を比較，さらに視診 LUS grading と術前超音波 LUS 筋層厚の関連について調べ，帝王切開既往例の子宮破裂予知に関して子宮下節超音波評価の有用性を検討した。成績として，視診による LUS grading 評価に関しては A 群では 35 例が grade I，26 例が grade II，6 例が grade III，2 例が grade IV であった。B 群は全例 grade I であった。LUS grade I、II と grade III、IV では、子宮筋層厚 (mLUS) で差があった (0.67mm vs. 2.07mm : P=0.0001)。また、LUS 厚 (fLUS) でも差があった (2.52mm vs. 4.37mm : P=0.0005)。

LUS grade III、IV 予測のため、母体年齢、経産回数、前回帝王切開からの期間、分娩時週数、新生児体重、帝王切開回数、前回帝王切開時の陣痛、fLUS、mLUS で単変量解析を行った。fLUS、mLUS のみが LUS grade III、IV に関連した危険因子として同定された。

mLUS と fLUS について、LUS grade III、IV を予測す

る至適厚を求めるため、ROC曲線を利用した。その結果、mLUSのカットオフ値は0.97mm、fLUSのカットオフ値は3.13mmと算出された。その時のAUCはそれぞれ0.910、0.877であった。mLUSのカットオフ値を0.97mmとし、LUS grade III、IVを陽性とする、感度87.5%(7/8)、特異度87.7%(71/81)、陽性的中率41.2%(7/17)、陰性的中率98.6%(71/72)であった。fLUSのカットオフ値を3.13mmとし、LUS grade III、IVを陽性とする、感度75.0%(6/8)、特異度91.4%(74/81)、陽性的中率46.2%(6/13)、陰性的中率97.4%(74/76)であった。

結論として帝王切開前の子宮下節のエコーでの評価は、帝王切開時の子宮下節の状態と相関があり、子宮破裂、子宮筋層離開を事前に予測する有用な方法であることが示唆された。